

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

私の場合、あることを伝えるときに、現場にいる人の頭の中にどんなことが浮かんでいるかを絵で表現することもよく試みます。人間の頭の中の働きを分析して、これを絵に描くのです。その際、何をどのように描くかを考えるときには、かなり集中して考えています。ものによっては、それこそ一枚の絵の★ラフコンテを考えるのに、三時間ないし四時間程度かかることもあります。これを「ビショ」がパソコンを使って清書するのですが、ラフコンテの段階でも清書の段階でも必ず★ブラッシュアップをするので、最終的に本などで使う絵は最初の段階よりかなり整理されたものになっています。

最近はこの会社でも、★データベース化が進んでいます。データベースは必要な情報を「テガル」に引き出せるシステムですが、(1)必ずしもうまくいっているわけではないようです。A、失敗事例集のようなものは、どこの会社でも用意しているようですが、現実にはこれらはあまり使われることがないようです。この原因は、提供している情報が「使える形」になっていないからにほかなりません。

仮に、これらの情報をポイントを整理してわかりやすく提供したら「ゲツカ」はちがつてくるでしょう。「使える形」「欲しい形」になつていれば、誰でも試みに覗いてみるくらいはするからです。それには当然、私がいづも心がけているように、大事なポイントを知ろうとしている人が吸収できる形に整理して表現することが必要になります。これは絵に限った話ではなく、言葉で表現するときにも必要になる、ある概念を時間や空間を超えて伝えるときの共通の注意点だと思ってください。

私は現在、企業において失敗や創造についての研修を行う際、絵の描き方を指導したうえで、必ず参加した人たちに失敗事例を一枚の絵で表現させています。あるひとつの失敗事例を読んで、どういう状況でどのような失敗が起こったかを一枚の絵にするのです。その反対に、一枚の絵を見て、そこからどういう状況でどのような失敗が起こったかというのを文章で表現するということもよくやります。

そこで気づいたことですが、この作業がうまくできる人の共通点として、ふだんからものごとをよく(2)しているということがあげられます。これは文章を絵にする場合も、反対に絵を文章にする場合もまったく同じで

な失敗を起こしてしまうというのが最近よく見かけるパターンです。その際、茫然自失になるだけで、本人はなぜ大失敗をしたかさえ理解していないのですから、これほど不幸なことはありません。

失敗学は本書のテーマではないので、これ以上、ここでは詳しく述べませんが、いま日本中のあらゆるところで起こっている問題は、すべて根っこ部分にこの「三ナイ」という問題があることは強調しておきたいと思えます。これを克服するには、これまでとは正反対のやり方をするしかありません。D、「現地」「現物」「現人」の「三現」を基本とするということです。

つまり、意欲を持って現場に足を運び、そこで現物を直接観察したり現場にいる人の話に真摯に耳を傾けるという方法です。これなしには、物事の本質を見ることができません。つまり、なにかしらの目的意識を持って、実際の体験の中で自分自身でなにかを感じたり自分の頭で主体的に考えることが大事なのです。そのように行動している人だけが、どんな状況にも柔軟に対応できる本当の知力、本当の知識を体得できるし、これを生かしてまったくのゼロの状態からでも新たなものを創造できるのです。

(畑村洋太郎『畑村式「わかる」技術』)

★ラフコンテ……大まかな筋書き。

★ブラッシュアップ……みがきあげること。

★データベース……データを集めたもの。

★メリット……利点。

★デメリット……不利な点。

★茫然自失……あつげに取られて我を忘れるさま。

★真摯……心をこめてものごとこまじめさ。

問一 (1)「必ずしもうまくいっているわけではないようです。」とありますが、それはなぜですか。本文の表現を用いて、四十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二 二箇所の(2)に共通して入る漢字二字の語を本文から抜き出しなさい。

す。日頃から物事をよく(2)している人は、対象の特徴に常に「チユウモク」しています。B、そのものが持っている★メリットや★デメリットを整理しながら見る習慣があるので、これを絵や言葉で表現するときに、そのものの特徴を際立たせて伝えることができるということではないでしょうか。

「ものごとをよく観察する」と言うのと、何だかものすごく当たり前のことを言っているように聞こえますが、(3)一人ひとりが実際それをできていないのがいまの日本の大きな問題点だと、私は考えています。

勉強でもビジネスでも、成功したいと思ったら、多くの人はまず成功例に学ぼうとするでしょう。すでに成功している手本を真似れば、それで万事うまくいくような気がするから、そうしたくなるのは自然のことなのかもしれません。それは決して間違ったことではありません。うまくいく方法には、それなりの真理が隠されているからです。しかし、現実には、思惑どおりうまくいくことはほとんどありません。成功例を真似ることで一時的にはうまくいくこともありますが、たいていの場合、やがて想定外のことが起こって最後は必ずダメになるのがオチなのです。

成功例に学ぶというのは、一見すると誰の目にも賢いやり方に見える。それなのになぜうまくいかないかというところ、お手本を模倣することでもうまくいくと考えている人は、やがてそれ以外の方法について「見えない」「考えない」ようになるからです。これが最大の特徴で、成功例に学ぼうとする人はいつもこれを「つねに変わらないもの」としてとらえようとします。要するに、過去にうまくいったものは、いつの時代のどんな状況でもそのまま使えろと思ひ込んでしまおうということです。

この状態が長く続くと、よりよいやり方を探し求めることまでやめて「歩かない」ようにもなります。「わかったつもり」になって、「こうやれば必ずうまくいくはず」と思ひ込んでいるからです。C、時代は常に変化しているのに、あるとき「よいやり方」だったものが、いつの間にか「ダメなやり方」に変わるといことがいつも起こります。とくに現代のように、状況が日々刻々と変化している時代においてはなおさらです。それなのに、「見えない」「考えない」「歩かない」の「三ナイ」主義に陥っている人は、自分が行き詰まっていることにさえ気づけないでいるのです。

まちがった道を進んでいるのに、過ちに気づくこともできずになんの手立ても打とうとしないのです。その(4)アゲ句、取り返しがつかない(5)

問三 (3)「一人ひとりが実際それをできていない」とありますが、そのことが何になつていると筆者は述べていますか。解答らんに合うように答えなさい。

日本中の(あ)(七字)で起こっている問題の(い)(三字)な原因。

問四 (4)「現実には、思惑どおりうまくいくことはほとんどありません。」とありますが、それはなぜですか。本文の表現を用いて七十字以内で説明しなさい。(句読点も含む)

問五 (5)に入れるのに、最もふさわしい語を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 科学的 イ 致命的 ウ 徹底的 エ 典型的

問六 A、Dに入れるのに最もふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア すなわち イ ところが ウ たとえば エ また

問七 (ア)(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア データベース化を進め、情報を引き出せるシステムを作らなければ

本当の知力や知識を体得し、新たなものを創造することはできない。

イ 何かしらの目的意識を持って、実際の体験の中で何かを感じたり

考えたりしなければ本当の知力や知識を体得し、新たなものを創造することはできない。

ウ 現地で現物を見て、成功している手本から物事の本質を見抜かなければ本当の知力や知識を体得し、新たなものを創造することはできない。

エ 取り返しがつかない失敗はなぜ起こったのかという理由を理解しなければ本当の知力や知識を体得し、新たなものを創造することはできない。

②次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

その晩、迷惑な訪問者が現れた。
「ごめんください」のひと言もなく、玄関の引き戸は開けられた。
キキキッ。

その音に家族全員が驚きながら玄関へと視線を送る。そこには、晶子と晶子の母親が、既に入り込んでいた。

両親が立ち上がり、すぐに対応する。

「あ、村上さんの奥さん。何か？」

「何かじゃないわよっ。うちの子、おたくの美代ちゃんにケガさせられたのっ」

その怒鳴り声にもびつくりしたが、私がケガをさせたという身に覚えのないことに身体が硬直した。両親は振り返り、私を見た。

「今日、運動会の練習で、うちの子にわざと足を掛けて転ばせたっていうじゃないのっ。一体、どんな教育してるの、おたくはっ」

晶子を見ると、その膝には大袈裟な包帯が幾重にも巻かれていた。

「晶子の友達だと思ってたから、何かにつけ一緒に遊ばせてあげたのに、まあこんなことされたんじゃないわっ」

「美代子……」父が私を見つめた。

私はただ黙って身を縮めた。(1)「違う」と反論すれば火に油を注ぐようなものだと感じたからだ。

「原田さんの紹介だったから、他の借り手を断ってまで貸してあげたのに、ホント、恩を仇で返すってこういうことよ。今度(2)こんなことしたら出てってもらわなくちゃねっ」

晶子の母親は踵を返しながらか、捨て台詞のように吐いた。

キキキッ、ピジャ。

引き戸が閉まった後、しばらくの間、静寂に包まれた。家族みんな、
然として声が出なかったのだろう。

最初に口を開いたのは兄で「何なんだ、あのおばさん」と、
それに続くように姉が「ばっかじゃないの」と首を捻った。

「やめなさい」母がふたりを窘める。

父は「ふう」と、気を鎮めるように大きく息を吐き、私に向かって「そんなことしたのか？」と、改めて聞き直した。

と、
[C]彼女たちの顔も見られなかった。

楽しい時間はあっという間に過ぎるが、厭なもの待っているときも時間の進みは早い。
コケコッコー。

近所で飼っている鶏の鳴く声が聞こえた。

当日の朝、早くから目覚めていたのに、私は布団から出ようとはしなかった。耳を澄しても雨粒の落ちている気配もない。運動会は予定通り始まる。

気の早い大人たちは、場所取りをするためにゴザを抱え、校門の前に集まっているのかもしれない。当時、小学校の運動会は町の一大イベントでもあった。

初めての運動会を楽しみにしていた弟が、家の中をバタバタと走り回る足音がする。

「美代子、起きなさい」と、母が私を起こしにきた。

(5)「母さん、私、おなか痛い」そんな嘘が咄嗟に口から出てしまった。

「いいから早く、支度しなさい」

母には、仮病だと分かっていたに違いない。

仕方なく布団から抜け出すと、枕元には真っ白な運動着と赤いハチマキが
[D]畳んで置いてあった。

着替えて、朝食の用意された卓袱台に着くと、両親と姉弟がみんな私を待っている様子だった。

私はひと言も喋らず俯いていた。
と、父がゆっくりとした口調で「美代子、この間のことなら気にすることはないぞ」と、話し掛けてきた。

「うん？」

私は目を擦りながら、父親の言う意味を理解しようとした。

「この家のことなら、何も心配することはない。父さんは、自分の子が侮辱されてまで他人に媚びへつらうのはイヤだ。父さんは無学だけど、そういうことは分かる。貧乏人だからって恥じる気もない。出て行けって言うなら出ればいい。それだけだ。だから、お前は何も気にせず思いっきり走れ」父は目を細めて穏やかな笑顔で言った。

「父さん……」

「それから、これ」

「ううん、してない。晶子ちゃんは自分で転んだ。ホントだよ、みんな知ってる、ホントだっ」私はそう言いながら、溢れてくる涙を手の甲で拭いた。

私ははてっきり叱られるものだと思っていたが、父は「そうか、もう分かったから……泣くな」と、私の頭を撫でた。私はほっとした気持ちと、親が信じてくれたという想いに、声をあげて泣いた。

その夜、兄弟と並んで入った布団の中で、私は寝付かれなかった。リレーで晶子を負かせば、きつとまた難癖をつけられる。そうしたらうちの家族はここから追い出されるに違いない。あの晩の私の頭の中には、路頭に
(4)一家の図が渦巻いていた。

私のせいで……

運動会前日は準備だけで授業はなかった。

私たちは体育館から障害物競走に使う平均台や跳び箱を運んだりした。

校門には六年生が作った巨大な看板が取り付けられ、校庭の空には万国旗が張り巡らされた。

テントの下の本部席では、放送委員が徒競走のときに使うレコードをポータブルプレイヤーに載せ、確認をしている。威勢のいい曲「カルメン」が大音響で響いた。

[B]運動会の準備は進み、その様子には私は追い込まれていく気分になっていた。

遠目に見た晶子の膝には、
これは見よがしに包帯が巻かれていた。それは周囲の同情を得るためと、私への無言の圧力なのだと感じた。

「はあ……。どうしよう？」

見上げた空はどんよりと曇り、私の心を表しているようだった。このまま明日雨になり、運動会が中止になればいいのにと願った。

「美代ちゃん、明日頑張ろうね」

リレーのメンバーにその声を掛けられても「あ、うん、そうだね」と、歯切れの悪い答え方しかできなかった。

「あ、そうだ、美代ちゃん、カラスウリは？」

「あ、そうだったね、ははは」私は笑って誤魔化した。カラスウリのことなどすっかり忘れていた。

……もしかすると。私は仲間を裏切ってしまったかもしれない。そう思う

父は卓袱台の下から紙袋を取り出すと私に渡した。

「うん？」

「開けてみる」

私は急いで袋を開けた。そこには真っ白なズックがあった。

「安もんでごめんね」と、母が謝った。

私は大きく頭を振った。

横から覗く弟が「いいなあ、僕のは？」と、訊く。

「お前は、今日、一等賞になったら」姉がふざけてからかう。

「ちえー」と、不満を漏らす弟を父は自分の膝の上に乗せた。

「美代子は、とにかく頑張れ」父はそう言って何度も頷いた。

「ありがとう……」それ以上は言葉にならなかった。同時に、
(6)仮病まで使って逃げてしまおうと考えた自分が恥ずかしくなった。

と、キキキッと音を立て玄関が開いた。兄が息を切らしながら勢よく駆け込んできた。

「おお、間に合ったか。美代子、ほら、幻のカラスウリだ」

兄の手のひらには橙色の実がたくさん載っていた。裏山まで自転車を飛ばし、採りに行ってくれたのだった。

「兄ちゃん、僕には？」弟が兄に駆け寄る。

「ああ、お前の分もある」

「やったあ」弟がはしゃぐ。

「美代子、いいか。これ塗って、絶対負けんなよ。負けたらぶつとばすかな」

荒っぽい言い方だが、触れた兄の手は温かかった。

「兄ちゃん、ありがとう」涙が止まらなくなった。

(森浩美『こちらの事情』)

★啞然……あきれて言葉が出ないさま。
★これ見よがしに……見せつけるように。

問一

——(1)「違う」と反論すれば火に油を注ぐようなものだ」とありますが、それは何がどうなることですか。三十字以内で説明しなさい。
(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二 — (2)「こんなこと」とありますが、具体的にはどのようなことですか。本文の表現を用いて、三十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問三 — (3)「涙」がありますが、「涙」を使った次の一～五の慣用句の意味を、後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 一 涙にむせぶ
- 二 涙をのむ
- 三 涙にくれる
- 四 血も涙もない
- 五 涙をふるって

〔意味〕
 ア つらい気持ちや、無念の思いをじつとがまんする
 イ 同情や個人的な感情をふりすてる
 ウ 悲しみの気持ちでくらす
 エ 涙で息がつまりそうになるほどひどく泣く
 オ 人間味に欠けて冷酷である

問四 (4) に入れるのに最もふさわしい語を二字で答えなさい。

問五 — (5)「母さん、私、おなか痛い」そんな嘘が咄嗟に口から出てしまった。」とありますが、それはなぜですか。八十五字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問六 — (6)「仮病まで使って逃げてしまおうと考えた自分が恥ずかしくなった。」とありますが、それは美代子が父親のどのような気持ちに気づいたからですか。本文の表現を用いて、七十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問七 A D に入れるのに最もふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア まともに イ きちんと
 ウ 着々と エ 忌々しそうに

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 晶子の母は美代子の一家のことを初めて会ったときから嫌っていたが、晶子の親友であるので美代子を応援した。
 イ 晶子と晶子の母親が言ったことについて、美代子の必死の説明で父親は真実をやつと理解して美代子を応援した。
 ウ 運動会当日の朝は美代子の両親だけでなく、小さな弟までも自分ができることを一生懸命考えて美代子を応援した。
 エ 美代子の兄は心から美代子の活躍を期待していて、荒っぽいところもあつたが自分なりのやり方で美代子を応援した。